

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

172号 2015年11月22日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「恵みに共に与る約束」

——フィリピの信徒への手紙第1章7～8節——

牧師 渡邊 義彦



わたしがあなたがた一同についてこのように考えるのは、当然です。というのは、監禁されているときも、福音を弁明し立証するときも、あなたがた一同のことを、共に恵みにあずかる者と思って、心に留めているからです。わたしが、キリスト・イエスの愛の心であなたがた一同のことをどれほど思っているかは、神が証ししてくださいます。

(新共同訳聖書)

フィリピ教会に宛てた手紙に聞かれるパウロの声は、彼が今置かれているであろう牢獄の、陽の差し込むことのほとんどない暗さ、寒さ、湿気、劣悪な環境といったことをまったく感じる事ができないほど伸び伸びと、生き生きと福音を伝える、イエス・キリストが果たしてくださった救いを宣べ伝える喜びと力に溢れています。フィリピ教会の人たちの名前と顔を思い浮かべ、兄弟姉妹たちのために祈る、兄弟姉妹たちといっしょに祈ることの喜びと平安に満たされている声を聞き取れるかのようです。

手紙の中ほどには、牢獄に囚われているパウロのもとへと遣わされてきたエパフロディ

トというフィリピ教会員のことが語られています。手紙の終わりのほうでは、エボディア、シンティケという教会で指導的な立場にあつたのであろうと思われる女性たちの名前が挙げられています。またクレメンス、その他の協力者たちへの呼びかけがあります。使徒言行録が伝えるところでは、リディアという婦人がフィリピ教会のはじまりにいますし、また、フィリピの町で投獄され出会った看守も、その家族と共に洗礼を受けることになりました。彼らもまたフィリピ教会の建設に力を尽くしたことでしょう。この他にも、フィリピ書にも、使徒言行録にも名前を挙げられていないけれども、パウロが祈るときに思い浮かべることのできる、共に恵みに与る兄弟姉妹たち、信徒たち、キリスト者たちがたくさんいるのです。彼らは皆、共にフィリピ伝道に力を尽くし、フィリピ教会建設にすべてを献げてきました。

フィリピ教会から教会員がパウロのもとに遣わされたり、パウロのもとから教会に使者が遣わされたりと、互いの間を往復する人と手紙によって、まるで互いがそこにいるかの

ように互いのことを思い浮かべ語り合っています。伝道者たちと教会が緊密な関係にあったこと、互いのために祈りあう堅固なネットワークの中にあったことがわかるのです。互いが置かれている状況も環境も違います。一方は、フィリピの町にとどまり伝道のための戦いを続けています。他方は、福音を宣べ伝えたことが理由で、離れた町で再び牢獄に囚われ一步も前に進めずにいます。一方は食べることも飲むことも自由に、出歩くことも自由です。他方は、食べるにも飲むにも事欠き、昼間でも光が届かないところに留め置かれています。まったく違ったところ、置かれた境遇もまったく違うところに置かれていながら、しかし、互いのことを神の恵みにあずかる者たちであると確信しています。

神からいただく恵みの確かさと、この確かな神の恵みに互いが与えることを確信しているゆえにネットワークは確固とした堅固さにあるのです。この確からしきは、わたしたちが固有に持っている確からしき、わたしたちの内から湧き出てくる確信でもなければ、わたしたちが囲まれ置かれている状況や環境の確かさでも、わたしたちに与えられている能力や資格から判断する確かさでもありません。この確かさは、わたしたちの外から、わたしたちが置かれている環境、状況の外から、わたしたちが、この恵みを享受する能力や資質に欠けていようとも、一方的に上から来る確かさです。神が恵みに与る者へと選んでくださった確かさです。キリストが御自身の命をもって贖ってくださり、救ってくださったことの確かさです。この確かさが救われた者たちに共通している確かな希望となります。この確かな希望にかつて生きて人たちがおり、

今また生きている者たちがおり、これからも同じ希望に生きる人たちが新しく生み出されます。このすべての聖なる者たちになお聖書は告げます。

あなたがたは共に恵みにあずかる者たちだ。

今も悲惨の残り続ける世界でこの言葉がわたしたちを支えます。ほんとうの支えとなる救いの約束をこそ、キリストの十字架によって完璧な保証を得た救いの恵みにあずかる約束をこそ、教会は世界に告げることができます。新しく、救いを確信する人たちが起こされ、信じる人たちが救われるため、教会はキリストの十字架を高く掲げここに救いは成ったと告げ続けます。キリストの十字架による救い、福音を告げることがわたしたちのできる隣人に対する愛の最も尊い表現方法です。

神は、主イエス・キリストにおいて、あなたがたを愛していてくださると、わたしたちも妻に夫に、父に母に、子どもたちに、友人に、共に学び、共に働く仲間、共に地域に住まう隣人、この国の人々、世界に告げてあげなくてはなりません。神の愛を告げる言葉に、わたしたちも人生のそれぞれにおいて聞きキリスト者とされ、今もまたキリスト者として歩み続ける力をいただいています。ですから、これを自分たちだけのものとするのではなく、たとえ自らは愛に貧しい者であることを覚えようとも、神の愛ははるかに豊かで御言葉は尽きることのない命の泉なのですから、これに全く信頼して、御言葉を、神の愛を隣人に伝えます。行いに、言葉に、愛に、わたしたちがどんなに貧しかろうと、神の恵みに与る約束は決して変わることがないので、神の御業にわたしたち自身を用いていただき大胆にキリストの御名を告げるのです。

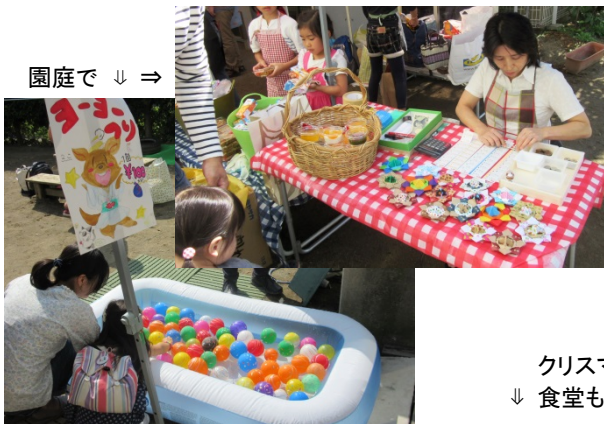
☆☆☆教会の行事☆☆☆

——今まであったこと——（定例行事は除く）

- ◇9月3日教会ロビーのレイアウト変更。パイプいすを運ぶ台車をエレベーターに載せるときの動線が悪く、運びにくかったり、壁に傷をつける恐れがあったので、受付のテーブル位置を右側の掲示板前に移動させた。幼稚園事務所前の壁際のベンチは従来通り。
- ◇10月3日～12月5日、毎週土曜日 19:30より「伝道会」（求道者会）が開催される。
- ◇10月12日（月・体育の日）11:00～14:00 2015年度教会バザー（写真下）が開催された。



↑ 始まる前から教会を取り囲んで並んだ列



園庭で ↓ ⇒



クリスマス オーナメント⇒
↓ 食堂也大賑わい



- ◇10月25日（日）秋の「大人と子供と共に守る礼拝」（合同礼拝）が行われた。
- ◇11月1日（日）聖徒の日記念礼拝が行われた。

——これからの予定——

- ◇11月29日（日）礼拝後、学びの会が開かれる。
- ◇11月29日（日）待降節第1主日（アドベントに入る）。
- ◇12月2日（水）13:30～15:30 新生会・いずみ会 アドベントの集い。
- ◇12月11日（金）10:00～12:00 ベテル幼稚園 保護者のためのクリスマス礼拝。
- ◇12月15日（火）10:00～11:00 ベテル幼稚園クリスマス礼拝（ページェント）。
- ◇12月20日（日）10:30～降誕祭（クリスマス）礼拝。12:30～14:00 クリスマス愛餐会。
15:30～16:30 C Sクリスマス礼拝（ページェント）。
- ◇12月24日（木）19:00～20:30 聖夜礼拝。

「求めなさい」

軽部 眞理子

ふと思ったのですが、讃美歌にはゴンベンがつくけれど讃美と賛美はどう違うのだろうか、賛美と書くのは間違いだろうか、教えて下さい、と、いきなり訳の分からない出だしで始まってしまいましたが、私にはこどもの頃に読んだアンデルセンの「雪の女王」のなかに出て来る讃美歌がずっと気になっていました。

「ばらのはな さきてはちりぬ

おさなごエス やがてあおがん」

アンデルセンの童話のなかで、「雪の女王」は何か恐ろしくそれでいて引きつけるものがある、私にはとても難しいお話でした。お話のあらすじはこういうものです。

サタンが歪んだ像を映し出す鏡をつくり、それを持って天に昇ろうとしますが途中で墜落します。そのため粉々になった鏡のかけらが地上に散らばり、その一つがカイという男の子の目に入ります。そのためカイは歪んだ心を持つようになり、雪の女王に連れて行かれます。隣同士で仲良しだった女の子のゲルダはカイを探しに出かけ、色々な人に出会いながらカイの居場所である氷の城に入っていきます。カイは女王の城で体も心も氷のように冷たくなっていますが、ゲルダが抱きしめて讃美歌を歌うと泣きだし目から鏡のかけらが流れ出て自分を取り戻します。女王から解放され二人は家に戻ります。

今でも当時（2～3年生頃）読んだ時の印象

を思い出します。それは冷たく何も感じなくなったカイが、女王の氷の城で何かをつくるために氷のかけらを組み合わせようと一人で床に座り込んでいる場面です。それが何なのか彼にはわからず、それでもひたすら組み合わせています。それは無機質な色のない強烈なイメージで、お話の中で3回うたわれるこの讃美歌は、その究極の対として光と色彩を私に感じさせました。カイが女王にさらわれる前の穏やかな子ども

の頃と、氷の城でカイを見つけたゲルダが歌う場面、そしてゲルダとカイが帰ってきた最後の場面です。そして帰ってきた子供たちにおばあさんが聖書を読みます、マタイ18章3節です。

「汝ら、もし、おさなごのごとくならずば、

天国にいることをえじ。」

「雪の女王」はゲルダがカイを探しにいく場面が続いていくお話ですが、心にずっとあったのは、カイが氷のお城

で組み立てようとしているものこの讃美歌と最後に出て来るイエスさまです。それが聖句でイエス様のお話でなかったと今回、改めて読んで解ったのですが、私には、バラの花が咲いてイエス様をこども達が取り囲んでいる日曜学校で貰ったカードのような絵が漠然と浮かんでいました。イエス様の大切な事が何か書かれているのだが難しくわからない、でも、この綺麗な讃美歌をもっと知りたい、こども讃美歌を見ても出てないし大人の讃美歌は難しく読めない、



中学生になって礼拝でうたう讃美歌でも該当するがありません。「雪の女王」の文字を見ると思い出して日本じゃ無理なのかと思っていましたが、大人になって或る時、467番の讃美歌を聴いて、これかもしれないと思い勝手にこれだと決めました。

「おもえばむかしイエス君
おさなごをあつめ
ともに遊ばせたまいし
その日なつかしや
われに来よおさなき子と
よびましし君の
あいの御手にいだかれて
み顔あおがばや」

多分、聖句に続くお話の最後の言葉

「さんびかのいみがはっきりわかってきました」

というのが、とても影響したのだと思います。日曜学校でお話を聞いている時のように、わからなくちゃと思ったのだと今は思えます。お話の讃美歌は467番ではありませんが、時々、一人でこの讃美歌をうたうとアンデルセンの讃美歌のイメージがそのまま溢れ、同じように光と色彩を感じるのです。礼拝でも集会でも選ばれた記憶がありません、21にはもう載っていないでしょう。

私が人生の中で最悪だと思われる時期に直面した時、一つのイメージがぐるぐる廻っていました。かなり成人してから読んだ短編に出て来る、ジャングルジムの影です。月の光でジャングルジムが格子のような形になり、得体の知れない暗闇が迫る中その「影の檻」から少年が出られなくなる物語です。実態ではないのに、そこから抜け出せないのです、私はその影の牢獄に自分が作り出した暗闇に囚われてうずくまっている状態でした。一番最悪の時期はそれに対応するのに必死で気づかないのですが、少

したつとエネルギーの補給切れのために全く動けなくなりました。仕事や日常生活は何とかこなしていますが、全てが重苦しく頭も廻りません。真に打ちのめされている時は動く事も、求め・探すエネルギーも出て来ないのです。心配した友人が私に、どんな時でも光を避けては駄目よと言い、門をたたくように促してきました。彼女はカトリックの信者で、ご主人が教会で毎週開いている讃美の集會に私を誘ってくれました。それはカリスマの集會で、ギターにあわせて讃美をし、それぞれ祈ります。ほとんどの方が異言で祈っていました。特に皆に祈って欲しい事がある人が居る時、異言ではなく共同祈願で輪になり手を取り合って祈りました。その集會での讃美と祈りは雨の雫がやさしく天から降り注ぐ様に感じられ、私に御言葉を与えてくれました。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。⁸ だれでも、求めるものは受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

(マタイによる福音書7章7節～8節)

苦しくエネルギーがなく、たたく事も出来ない時、主イエス自らが出向いて叩いてくださったかのようなようでした。自分を取り巻く「影の檻」に強い光が差し込む時、暗闇が後退して少年は父親に助け出されます。父親のかざすランプの光に影は追い払われていくのです。カトリックの集會で讃美されたうたは讃美歌21にも載っているマラナタや、そういった新しい讃美集でした。そしてそれは暗闇を追い払っていくには十分な主のかざす光でした。手を挙げて讃美する、柿ノ木坂教会には馴染めないスタイルでしたが、10人前後で集まっていたあの集會は主が私に備えてくださったものでした。感謝します。

トーンチャイム クワイア

渡辺 久子

トーンチャイムのグループは年数回の奉仕を目標に、土曜日の夕方に練習をしています。

活動が細々と始まってから15年ほど経ちます。気が付けば人数も15人を超え、扱う曲も難しくなり、ずいぶんと大きく成長しました。トーンチャイムは鉄琴を鍵盤ごとにバラバラにして一人2、3本担当して演奏する楽器と想像いただくとイメージが湧くでしょうか。ハンドベルと似ていますが、柔らかい音色で楽器も軽く、扱いやすい楽器です。基本的な鳴らし方さえわかれば楽譜を読めなくても演奏することができ、幼稚園生からおじいちゃんおばあちゃんまで楽しむことができます。この教会では主日礼拝での奉仕の他に、教会学校の中高生、ベテル幼稚園の保護者の方々などたくさんの方々に利用されています。

さて、トーンチャイムの練習の様子を紹介いたします。曲は基本的に筆者（＝指揮担当）の独断で決めます。どの曲を選んでも初めは「えーこんな難しい曲」「長い！」と言われます。見た目の難しさは、楽譜に書かれる音符の密度で判断されているようです。楽譜に出てくる全ての音を人数で割って担当を決めます。適当に楽譜を手に取り、取った楽譜の音が自分の担当となります。ここから、各メンバーの仕事が始まります。楽譜を最初から最後まで眺め、自分の音に色を付けます。何年か前まではここまでで1回分の練習が終わっていましたが、最近は20分ほどで出来上がります。（進歩その1。）

色付けが終わると、手拍子に合わせて音を出します。一人で楽譜を見ていてもどんな曲なの



か全く想像が付きませんが、皆で音を鳴らしてみると曲が浮かび上がってくる楽しい瞬間です。これも何年か前までは思ったところで音を鳴らせず、1回曲を通すまでに時間がかかりましたが、最近はずむに乗ってしまえば1回目から最後まで通ることもあります。（進歩その2。）

ベテランの皆さんは始めた頃より10歳以上年齢も重ねられているはずなのですが体の反応は素早くなっています。音を鳴らしてみると、色を付け忘れていた、違う色を付けているなどいろいろありますので、正確に楽譜を再現するために練習を重ねます。ここまででほしい3回くらいかかりますが、毎回、練習を始めるときが大変です。こんな曲前回やったかしら？ 見覚えのないわ～ などなど、常に新鮮な気持ちで楽譜と向き合います。慣れたら手拍子を外し、強弱やテンポなど工夫しながら曲に仕上げている、奉仕の前日は礼拝堂に場所を移して練習します。奉仕本番は、うまく行くときもあれば、間違えることもありますが、一発勝負の緊張感を楽しんでいます（多分）。

奉仕が終わるとチャイムを汚さないために着用している白い手袋がしっとりしていることもしばしばあります。緊張感がありますが、一人一人の小さな力が集まって一つの曲となり、礼拝で捧げることができる幸せを感謝しています。

このように活動を続けているトーンチャイムですが、何よりも良いところは一人では演奏できない曲をメンバーと一緒に演奏できることです。以前、奉仕を聴いてくださった方が、コリントの信徒への手紙Ⅰ12章12節以下を引いて、

チャイムはとても教會的な楽器だと言ってく
ざったことがあります。チャイムのグループを
一つの体、メンバー一人一人を部分と考えると、
誰一人欠けても演奏はできません。上手な人は
始めたばかりの人のサポートはしますが代わり
をすることはできません。10年以上弾いている
人も、初めて奉仕に参加する人も、自分に与え
られた責任をはたし、他の人と一つの曲をイメ

ージすることで曲がまとまっていきます。改め
て良い楽器だと感じています。

これからも音楽を楽しみつつ、奉仕の機会を
与えられていることを感謝して練習に励みたい
と思います。

最後に。常に新しいメンバーを募集中です。
特別な技術は必要ありません。ご興味ある方
はぜひメンバーにお声掛けください。

トーンチャイム クワイア メンバー募集

特別な技術は必要ありません。ご興味ある方はぜひメンバーにお声掛けください。

特別

聖夜礼拝 聖歌隊で歌いませんか？

12/24（木）は夜7時より聖夜礼拝が行われます。

第一部（礼拝）のあと、第二部では聖書朗読と讃美歌を通してクリ
スマスの物語をたどります。司会者の朗読と会衆全員での讃美歌を交互に
入れますが、聖歌隊のみで歌う場面もあります。



今年は、「聖夜礼拝特別聖歌隊」を編成し、普段の聖歌隊メンバーに
限らず多くの方々に参加していただき、讃美を捧げたいと思います。

ぜひともこの機会に、聖歌隊の練習に普段から参加することは難しくとも期間限定ならでき
るという方、聖歌隊に興味はあったけれどもなかなか機会がなかったという方、できるだけたく
さんの讃美を捧げたい方、どなたでも歓迎です！

ぜひともこの機会にご参加ください。

参加を希望される方は聖夜礼拝特別聖歌隊までお声をお掛け下さい。（辻 智子、石丸 恵彦）

練習予定は下記の通りです。以下の日程の内少なくとも2回以上の練習に参加してください。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ① 10/25（日） 礼拝後 | |
| ② 11/8（日） 礼拝後 | ⑥ 12/13（日） 礼拝後 |
| ③ 11/15（日） 礼拝後 | ⑦ 12/19（土） 17:00頃～〔予備日〕 |
| ④ 11/22（日） 礼拝後 | ⑧ 12/23（水） 17:00頃～ |
| ⑤ 11/29（日） 礼拝後「学びの会」終了後 | ⑨ 12/24（木） 聖夜礼拝第二部 本番 |

曲 目：「久しく待ちにし」「きたりたまえ、われらの主よ」ほか。

今月のメッセージ

—11月のホームページ巻頭言から—

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。

(新共同訳聖書・

ローマの信徒への手紙第1章16節)

先月、ここでお知らせしました「教会バザー」は、多くの方々に来場いただき盛況のうちに無事終わりました。お出かけくださった皆様、ありがとうございます。幼稚園のお母さん、お父さん方、尊いご奉仕をありがとうございました。教会員の皆さん、お疲れさまでした。天気も良い日でしたし、例年そうではありますが連休ですから、遠方にお出かけの方が多いのではないかと思いましたが、思いがけず地域の多くの方々に訪れていただきました。

教会バザーを通して集められましたものを、今年4月に起きましたネパール大地震で被災した教会支援、アフリカ・ケニアで障害児医療の展開をはじめた新事業(シロアムの園)支援、そして現在、柿の木坂の地に建っている教会堂維持のための資金として用いさせていただくこととしました。教会が建ち続けること、そして、キリスト教信仰に基づく事業により社会に福祉がもたらされるのは大切な

ことと考えました。建ち続けることで教会は、地域に仕えます。キリスト者たちは与えられた賜物を良く用いて、家族に、地域に、社会、国、そして世界に仕えます。

先日、一人の教会員と話したことで考えさせられました。彼は、お子さんを育て上げて壮年になって洗礼を受けました。娘さんが教会員であったことがきっかけです。教会のもっとも近くに住んでいる会員の一人です。今住まっているところに幼少の頃から育ちました。ところが、幼少の頃も、少年、青年期も、ここにキリスト教会が建っていたことを知らなかった、と言うのです。これだけ近くに住んでこられてなお！彼が洗礼に至った思い計ることのできない導きを思います。

キリスト教、キリスト教会は、確かに日本においてマイノリティーです。けれども、たとえそうであろうと、教会は、地域に、社会に伝えなくてはならない良いものを与えられており、そして伝え得る力を与えられています。この発信力を失ってはならないし、まだ、教会の存在を知らない人たちに教会を訪れていただく必要があります。福音を発信する場所を失ってはならないのです。教会がここに建ち続けてゆく意義を改めて覚えています。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・教会バザーは晴天に恵まれ、順調に実施できました。いづみ会を中心とした教会員の努力の結果です。10月の教会ホームページの渡邊先生の文にもありましたが、キリストが一人でも多くの人々に伝えられる機会として、用いられたことを感謝します。降誕祭に向けて、新しい受洗者が与えられますよう祈ります。
- ・幼い日に読んだ本は心に残っています。今号の「私の聖句・讃美歌」で、改めてその力を思いました。
- ・教会報へのご意見・ご感想を編集委員まで、お寄せください。(K. I)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦